

# しいのき



天孫降臨・相生の舞

## 里神楽と中野

名誉館長 三 隅 治 雄

獅子舞で有名な江古田の氷川神社で、大正12年（1923年）ころから宮守りを勤めたのは萩原門次師という里神楽の名人でした。相模流という、江戸風とはちょっと違った華麗な芸風で人気がありました。

里神楽は、江戸時代、江戸内外の神社の祭礼に、境内の神楽殿で神楽師と呼ばれるプロの芸能者が競って演じた仮面楽劇です。日本神話を主な題材に、手振りで見せるパントマイム黙劇で、道化役のモドキが人を笑わせ、庶民を沸かせました。

10月から11月にかけて、当館で催す神楽展と講座には、門次師の曾孫の名手萩原正義師と、同じく曾孫の故萩原彦太郎師のご社中が協力・出演していただきます。前者は板橋区、後者は新宿区の無形文化財に指定されているのは、現在の居住地が両区にあるからで、正義師は、こども時代氷川神社で稽古をしたといい、彦太郎社中は今も氷川神社の祭りで屋台囃子を演奏しています。

萩原神楽の血は中野で育まれたのです。

## 中野往來

# れきみん夏休みイベント むがしのくらしを体験しよう!

当館では毎年夏休み期間中、小中学生のための学習相談室を開いています。2000年度からは、「火おこし」「石臼挽き」といった体験学習も行ってきました。その体験学習も今年は、11項目のほり、大昔から数十年前まで、様々な時代の人々の暮らしを体験しながら学べるようにしました。なかでも今回は、ちょっと昔の暮らしを体験するメニューを充実させることに力を入れました。

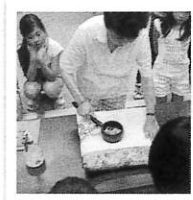
昔の人の暮らしを知り、人々がどのような工夫をしてきたかを体験しながら学べるような題材を探すため、実際に経験したことのある方の協力を得ながらテーマを設定しました。今年のテーマは、毎日の生活に欠かせなかった“火を起こして使う”、“身の回りにあるものを材料にいろいろなものを作る”に決めました。

まず、火起こしは、大昔は、木と木をこすり合わせた摩擦で火をおこす。明治時代にマッチを使い始めるまでの火打ち石と火打ち金の体験もする。続いてマッチを使って、七輪で炭を起こす。そして、その炭を火鉢に入れ、裁縫用にこてを温めて使う。ひのしに炭を入れ、布のしわ伸ばしをする。という体験学習ができました。

そして、日本最古の布といわれる<sup>あんざん</sup>編布にも挑戦しました。(編布は、麻など植物繊維を糸にして編んだ布で、縄文時代の人々は編布で作った衣服を着ていたとみられています。)

また、電子式卓上計算機ができる前に使われていた手動式計算機の体験“タイガー計算機で計算”も子供たちに好評でした。

さらに、わらを使って縄ないをしました。縄をないながら、講師が語る昔の暮らしぶりや昔の子供はよくお手伝いした話などを子供たちは熱心に聞き入っていました。縄跳びができるくらいの長さまで作り、本物の縄跳びをして昔の暮らしの体験を終えました。



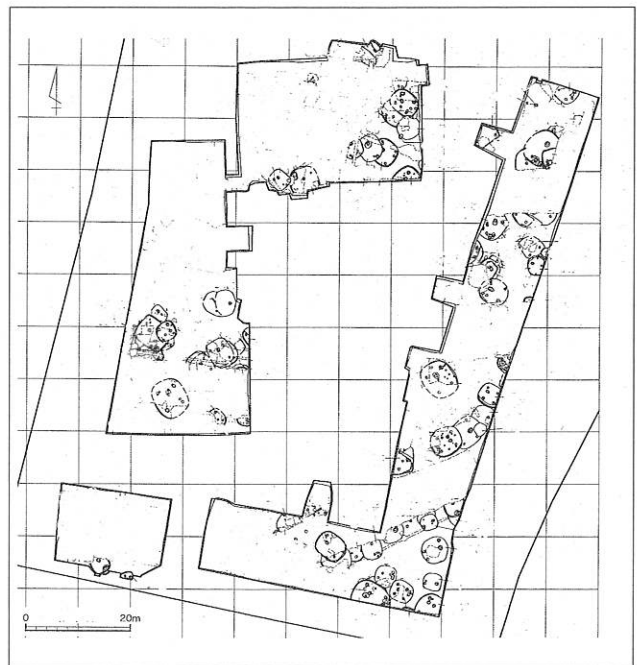
# 大地に眠る歴史

## 中野区の遺跡(7)

弥生時代後期(1世紀中頃～3世紀中頃)になると、神田川流域には、沢山の集落が出現します。

大規模な拠点集落としては新宿区下戸塚遺跡・新宿区落合遺跡・中野区広町遺跡・中野区平和の森新井三丁目遺跡・杉並区方南峰遺跡・杉並区鎌倉橋上遺跡などが発掘調査されています。

中野区広町遺跡は、弥生町6丁目2番の神田川と善福寺川の合流点にある遺跡で2007年12月から2008年4月に集合住宅建設に先立ち発掘調査が行われました。約4,500㎡の調査範囲から104軒の竪穴住居跡が発見され、住居跡は重なり合って建てられ、長い期間に人々が住み続けた様子がわかりました。発見された土器をみると、静岡県西部のものや埼玉県北部のもの、長野県の可能性があるものなどがあり、遠い地域の人びととの盛んな交流がうかがわれます。まさに神田川中流域の拠点となる集落跡です。



中野区広町遺跡弥生時代後期の住居跡

特に注目される発見は鉄製品の出土です。鉄の矢じりの先や、小さな板状のものなど7点が検出されました。弥生時代の鉄製品は珍しく、特に東日本では希少なものです。板状のものは何かを製作した断片と考えられ、この地で鉄の道具の製作が行われていた可能性を示しています。(つづく)



# 文化財よもやま話

## れきみん収蔵事情

今回は、開館20周年記念を迎えた“れきみん”の収蔵事情について触れてみたいと思います。当館所蔵の資料は、おもに中野区に関係するものが中心です。この20年間、多くの方々がたくさんものを寄贈してくださいました。むかしはどここの家庭にでもあったであろう生活用品から、山崎家の資料、井上円了の遺品、数々のお雛様など種類も実にさまざまです。

いま改めて収蔵庫を眺めてみると、ありがたいことに資料の数もかなり増えてだいぶ充実してきました。最近では、すでにいくつも収蔵されている資料については、残念ながらお断りするケースも多くなっています。初期の頃の「しいのき」の寄贈資料一覧を見ると、たんすや仏壇なども受け入れています。現在ではスペースの問題でお引き受けすることが難しい状況です。

しかし、過去の区民生活や区の歴史に関わるもの、学術上貴重と判断されるものについては、引

き続き収集していく方針に変わりはありません。特に資料数が少ない戦争中の道具・医療・産業・商業・信仰・人生儀礼などに関するものについては処分される前に是非ご相談ください。その際、誰がどんな風に使っていたのかという、ものにまつわるエピソードなどが分かれば、さらに今後の活用の幅が広がります。

また、農具や生活用品はすでにたくさんありますが、区内の小学校への貸出資料・夏休みの体験用資料として活用できる場合があります。状態の良いもの（今も使える状態）をお持ちでしたら、お知らせいただくとありがたいです。



最近の寄贈品から「奉公袋」

## おかげさまで20周年

山崎記念中野区立歴史民俗資料館  
館長 中村 茂男

小館は1989（平成元）年10月3日に開館し、おかげさまで本年10月3日は開館20周年の節目になります。毎年さまざまな展示や事業などを実施し、特に早春の「おひなさま展」や「古文書講座」は開館以来の恒例として広く知られております。またご寄贈いただいた収蔵資料も順調に増え、近年では重複する品の寄贈申し込みをお断りさせていただかなくてはならないほどです。しかし、現在の社会情勢は小館にとりましてもその影響が大きく、更なる運営の工夫と努力が求められています。

このような状況にあっても、区民の皆様が歴史と民俗に親しみを抱いていただける事業展開に努めてまいりますので、一層のご指導・ご鞭撻を心からお願い申し上げます。



中野区の「区の木」で小館のシンボル・椎の木  
2009年8月15日撮影

# 事業報告

## 各種事業経過

2009年4月～2009年9月

事業名	内 容	期間
企 画 展	開館20周年記念「みんなお宝、みんなのお宝」 開館20周年記念「時にはむかしの話をしよう」	4/25～5/31 7/20～9/3
所蔵名品展	「新指定文化財紹介」 「獅子頭コレクション展」	4/14～5/14 5/23～6/28
年中行事展	「五月人形展」	4/11～5/10
夏休み学習展	「かんさつしよう！むかしのどうぐ」	7/20～8/30
夏休み事業	「せんたく板で洗たく」 7/22 「学習相談」 7/24・8/4・15 「火おこし」 7/24・8/7・29 「紙すき」 7/31 「障子張り」 7/30 「昔の暮らしを体験しよう」 7/28・8/12・18・27 「土器を作ろう」 8/1 「万華鏡作り」 8/5 「お手玉作り」 8/13 「張り子作り」 8/19 「勾玉作り」 8/22 「江戸紋切り」 8/26	
歴 民 講 座	開館20周年記念「歴民と私の20年」 講師：三隅治雄氏、石井則孝氏、岡田芳朗氏、中島恵子氏	6/6・13・20・27
古文書講座	講師：笠原綾氏（日本放送協会学園専任講師）	9/12・19・26
公 開 事 業	春季「山崎家茶室書院公開」	4/25～5/6
埋蔵文化財 対 応	江原町二丁目24番民有地立会調査 沼袋二丁目16番民有地立会調査 本町四丁目13番民有地立会調査 弥生町三丁目35番民有地立会調査 江原町一丁目20番民有地立会調査 沼袋一丁目30番民有地試掘調査（国庫補助対象事業） 沼袋一丁目30番民有地試掘調査（国庫補助対象事業） 本町五丁目33番民有地立会調査	3/11 4/1 4/2 7/3 7/31 8/4 8/5 8/20
そ の 他	小学校3・4・6学年総合学習見学16校	4月～9月

## 寄贈資料一覧

2009年2月～2009年7月

敬称略受入順

資 料 名	点数	氏 名
雛人形、タライほか	一括	東 九三雄
雛人形、柳行李ほか	一括	杉本憲亮
江古田獅子舞DVD	1	藤村友美
戦争関係資料	一括	滝澤元治
花岡萬舟関連コピーほか	一括	濱本良一、なお子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

## 入館状況

2009年3月～2009年8月（延べ152日間）

（人）

一 般	団 体	学校教育	合 計
15,375	370	820	16,565

発行年月日 2009年10月1日

編集・発行  山崎記念  
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03 (3319) 9221 FAX 03 (3319) 9119